

□実験庭園俯瞰（改修前、改修後）



▲実験庭園俯瞰（改修前）



▲実験庭園俯瞰（改修後）

□主な仕掛けの一例（丸太積み、希少種の保全、鳥の巣箱の設置）



▲丸太積み



▲希少種の保全



▲鳥の巣箱の設置

□実験庭園レイアウト図



この中庭は、**生物多様性**の保全に向けたさまざまな取り組みが導入されている庭です。

- | | |
|--------------|-------------|
| ① 既存樹木の活用 | ⑩ 止まり木 |
| ② ゴロタ石積み | ⑪ バードバス |
| ③ 昔から日本にある植物 | ⑫ 丸太積み・小枝積み |
| ④ 草地 | ⑬ 落ち葉溜め |
| ⑤ 絶滅の危機にある植物 | ⑭ 土系舗装 |
| ⑥ レインガーデン | ⑮ 枕木舗装 |
| ⑦ 碎石カゴ | ⑯ 透水性・保水性舗装 |
| ⑧ 鳥や蝶が好む木 | ⑰ ロックガーデン |
| ⑨ 巣箱 | |



ヤマザクラ



エゴノキ



イロハモミジ



シジウカラ



ヤマトジミ



ナミアゲハ



アオスジアゲハ



クロアゲハ

□世田谷ハウス施設概要

所在地 東京都世田谷区船橋 7丁目 25-2
施設用途 集合住宅（社宅）
規模 地上4階建 2棟 40戸
敷地面積：4,830.55 m²、緑地面積：1,503.9 m²
竣工 1998年3月
所有者 三菱地所㈱

□実験庭園改修概要及び実験体制

規模 緑地面積：約400 m²
竣工 2015年9月
計画立案 三菱地所レジデンス㈱
基本構想・基本設計 ㈱三菱地所設計
実施設計・施工 住友林業緑化㈱
管理会社 三菱地所コミュニティ㈱
企画協力 ㈱メック eco ライフ
生物調査 ㈱地域環境計画

◆参考

□三菱地所グループの ABINC 認証取得物件

【都市・SC版】

- ①大手門タワー・JXビル、大手町パークビルディング（東京都千代田区）
- ②大名古屋ビルヂング（愛知県名古屋市）
- ③大手町フィナンシャルシティ グランキューブ（東京都千代田区）
- ④MARK IS みなとみらい（神奈川県横浜市）

【集合住宅版】

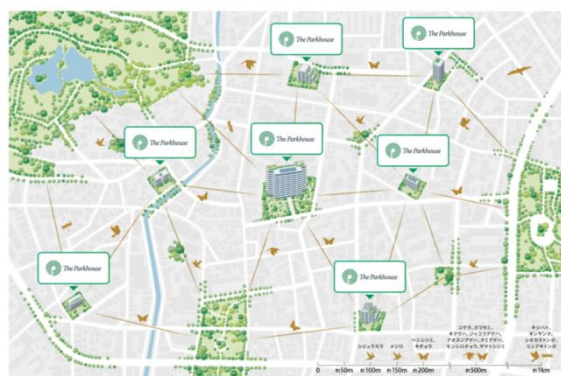
- ⑤ザ・パークハウス 千歳烏山グローリオ
- ⑥ザ・パークハウス 西新宿タワー60
- ⑦ザ・パークハウス 桜坂サンリヤン
- ⑧ザ・パークハウス 東戸塚レジデンス
- ⑨ザ・パークハウス 国分寺緑邸
- ⑩ザ・パークハウス 宝塚 ほか

□ザ・パークハウスの生物多様性保全の取組み「BIO NET INITIATIVE」

三菱地所レジデンスでは、2015年2月より運用を開始した新築分譲マンションブランド「ザ・パークハウス」の生物多様性保全の取組み「BIO NET INITIATIVE」が国内各エリアにおいて通算50物件での実施を達成しました。

本取組みは、敷地の大小関わらず全ての「ザ・パークハウス」で生物多様性の保全に配慮した植栽計画を行い、点であるマンション単体から、地域の緑地や街の緑をつなぎ、植物や生物の中継地的な役割を果たす緑化空間を創出し、面に波及させる街づくりです。本取組みが各エリアにおいて、「ザ・パークハウス」の供給と共に広がっていくことで、各エリアでエコロジカルネットワークが形成されていきます。

三菱地所レジデンスでは年間約50物件・5,000戸の「ザ・パークハウス」を供給しており、今後も継続して本取組みを行い、ザ・パークハウスが供給される各エリアにてエコロジカルネットワークを形成していきます。



□丸の内エリアにおける生物多様性保全に関する最近の取組み

エリアの生物モニタリング調査結果を纏めた小冊子「丸の内 生きものハンドブック」を発刊し、弊社が所有する丸の内地区のビルにて、エリアの就業者、来街者を対象に無料で配布しています。

丸の内地区は、皇居、お濠、日比谷公園など良好な自然に隣接しているため、一年を通じて、花や樹木に加え、昆虫、鳥など、様々な生き物を見つけることができます。本ハンドブックは、丸の内地区内に生息する多様な生物を、季節毎、水辺・夜などのテーマ毎に纏め、その姿と名称を写真付きで紹介するほか、都市の自然の達人のコラム、個人でも身近にできる生物多様性保全の提案、自然観察の服装・グッズの紹介、丸の内地区における環境への取組みの紹介など、豊富なコンテンツで構成されています。

また、2017年2月初旬には、皇居外苑濠に面する大手門タワー・JXビル及び大手町パークビルディングの外構に、皇居の水と緑と調和した約2,800㎡の緑豊かな「ホトリア広場」がグランドオープンします。同広場は、エリア就業者の憩いの場になると共に、皇居近傍の地において生物環境に配慮した樹種選定や施設計画を行い、生物多様性の保全に貢献します。加えて、同広場隣接の交流施設「3×3 Lab Future」(2016年3月1日オープン)と連携し、緑や自然と関わるアクティビティや催しの開催、セミナーや環境教育等の実践等に取り組みます。



▲表紙



▲エリア生息生物紹介ページ



▲ホトリア広場完成イメージ



▲3×3 Lab Future

【ABINC 概要】

■名称：一般社団法人いきもの共生事業推進協議会

Association for Business Innovation in harmony with Nature and Community (略称 ABINC)

■設立：2013年12月25日

■理事、監事および顧問：

- 代表理事：中静透（東北大学大学院生命科学研究科教授）
- 理事：亀山章（公益財団法人日本自然保護協会理事長、東京農工大学名誉教授）
- 理事：森本幸裕（京都学園大学教授、京都大学名誉教授）
- 理事：黒田大三郎（公益財団法人地球環境戦略研究機関シニアフェロー）
- 理事：足立直樹（一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ事務局長）
- 理事：原口真（一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ顧問）
- 監事：梶谷修（一般社団法人日本環境アセスメント協会会長）
- 顧問：川廷昌弘（一般社団法人 CEPA ジャパン代表）
- 顧問：窪木登志子（窪木法律事務所 弁護士）

■事務局 株式会社インターリスク総研

■ABINCの活動理念：

生物多様性条約第10回締約国会議（CBD COP10）において採択された愛知目標および生物多様性戦略計画で掲げられた、2050年までの長期目標「自然と共生する世界」の実現と、2020年までの短期目標「生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する」の実現のために、ビジネスの貢献が求められています。当法人は、「自然と共生する世界」の実現にビジネスの貢献を推進するために、自然環境と地域共同体への負荷をできるだけ外部化しようとしてきた企業活動のベクトルを反転させ、志をともにする団体と協働して、いきものと人が共生できるしくみを「創造」し、科学的・技術的に「検証」し、「事業化」を推進することを目的として設立されました。活動の第一弾として、JBIB（一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ）が開発した「いきもの共生事業所®推進ガイドライン」に基づく、オフィスビルと商業施設を対象とした「いきもの共生事業所®認証」（通称：ABINC認証）を2013年度より開始いたしました。

※いきもの共生事業所は、JBIBの登録商標です。